

|   |
|---|
| <p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を実践する。</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p>2 本年度の重点目標</p> <p>「自ら気づき 考え 行動する」<br/> <b>すべての教育活動と地域とのつながりの中で自立する生徒の育成</b><br/>     ・「自ら気づき 考え 行動する」という教育スローガンのもと、すべての教育活動をとおして生徒の主体性や自らを律する力を育成する。<br/>     ・地域とのつながりをとおして、将来、地域社会を構成する自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力(人間力)を高める。</p> <p>1 生徒の自己有用感を高める指導の充実(居場所と出番、安心感のあるクラスづくり)<br/>     2 生き生きと学び合う授業づくりの推進(授業改善と学習評価の工夫、ICT活用)<br/>     3 自治力を高める活動の推進(生徒会、学校家庭クラブ、学校農業クラブの取組)<br/>     4 地域とともにある学校づくりの推進(地域との協働事業、ボランティア活動)<br/>     5 健やかでたくましい心身を育む教育の推進(心身の自己管理、部活動の推進、清掃活動)<br/>     6 実効性のある働き方改革の推進(業務内容の見直しで生徒と向き合う時間を作る)</p> |
|---|

| 3 自己評価総括表 |           |   |   |  |    |  |
|-----------|-----------|---|---|--|----|--|
| 評価項目      |           | 評価の観点   | 具体的目標   | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |
| 大項目       | 小項目       |   |   |  |    |  |
| 学校経営      | 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> <li>○広報活動の推進</li> <li>○公開授業の推進</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の取組や学校の最新情報の発信</li> <li>○公開授業を年間2回実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT部の新設</li> <li>○HP・SNS等による情報発信</li> <li>○各部・各科・各学年が連携した広報活動の実施</li> <li>○公開授業は教科内での検討・教務部の立案により実施</li> </ul> | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○新設のICT部によって業務の細分化と効率化が進んだ。</li> <li>○広報活動もPTを編制し各所にてリニューアルを図った。</li> <li>○計画に則って公開授業を実施するが、参加者数は少なく、周知や公開方法に課題が残った。</li> </ul> |
|           | 職員の資質向上   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校改革による業務改善及び校内研修の充実</li> <li>○研修等へ積極的な奨励及び育成</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌の活性化とリーダー育成</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師による校内研修の実施</li> <li>○各担当業務における具体的目標の設定とその進捗状況の把握</li> <li>○面談等での研修紹介及び推奨</li> </ul>                        | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○主任主事を対象とした校内研修や個々のスキルや経験値に応じた研修を勧め、組織全体の連携強化につなげた。</li> <li>○担当業務の進捗状況の把握から改善・対応までに部署間で温度差が見られる。</li> </ul>                    |
|           | 働き方改革の推進  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○業務の整理・効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現</li> <li>○セルフマネジメント能力の育成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務時間月45時間を超える教職員を月平均6人以下</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○業務改善策の募集・実施</li> <li>○職場の環境整備</li> <li>○迅速な情報の共有化</li> <li>○日常的な職員への声かけ</li> </ul>                             | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務時間が月45時間を超える教職員は1月末現在で平均5.7であった。</li> <li>○今後も業務見直しや調整等を行い職員の心身の健康の保持増進につなげる。</li> </ul>                                  |
|           | 危機管理体制の強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理意識の向上と的確</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルの点検</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○総務部を中心とした各部での危機管理マニュアルの総</li> </ul>  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルの点検及び見直しを進め、新規</li> </ul>   |

|              |                  |                    |   |  |   |  |
|--------------|------------------|--------------------|---|--|---|--|
|              |                  | な対応                | ・見直し及び防災避難訓練等の実施  | 点検（改善）<br>○実験・実習・体育・学校行事等における想定及び事前指導の徹底                                   | A | に作り直すことができた。<br>○定期的な防災訓練等の中で見直すべき課題発見とともに改善策をさらに進める。  |
|              |                  | ○学校管理下の事故未然防止の取組   | 実験・実習・体育・学校行事等での事故「0（ゼロ）」                                     | ○定期的な劇物・薬物の保管・使用状況の点検<br>○施設・設備の安全点検                                       | A | ○学校薬剤師による点検及びGoogleフォームを用いた広範囲の施設・設備点検を実施。情報共有から速やかな事後措置を展開している。   |
| 学力向上         | 基礎学力の向上          | ○学校全体での個に応じた指導の徹底  | ○生徒の授業に臨む姿勢、理解度に応じた授業づくりの推進                                   | ○授業の時間厳守や与えられた課題の提出の徹底<br>○進路指導部と連携した学習支援ツール活用による個に応じた指導と課題の充実             | A | ○具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。<br>○学習支援ツールや到達度テストを休暇中の課題やその課題テストとして活用し、教員の業務負担軽減にもつなげることができた。                  |
|              | わかる授業の創造         | ○生徒の実態にあった教科指導力の向上 | ○新学習指導要領に対応した観点別評価の確立<br>○ICT活用を意識した授業の実施<br>○合理的配慮ある授業づくりの推進 | ○評価方法のさらなる工夫と改善<br>○単元別シラバス作成<br>○ICT部や支援員による研修会の実施<br>○教育相談部と連携した授業のUD化推進 | B | ○テストや課題などを用いた観点別評価も定着してきた。<br>○ICTを用いた授業実践や学校行事への活用が進む一方、授業UD化はこれからも検討が必要である。                                |
|              | 朝読書の充実           | ○朝読書の推進            | ○10分間黙読の徹底及び一人当たり年間冊数の増加                                      | ○全職員による読書指導の継続   | B | ○黙読の徹底はできている。<br>○ICTを活用した図書だよりの作成・配付も定着した。<br>○図書館は頻繁に利用されている一方、電子媒体による読書が一般化する中で年間の生徒一人あたりの貸出冊数は年々減少傾向にある。 |
| キャリア教育（進路指導） | 将来を見通したキャリア教育の充実 | ○適確な自己分析と適正な進路選択   | ○キャリアパスポート活用とキャリアプランニング能力の育成<br>○進学目標実現                       | ○系統別進路学習・進路ガイダンス・進路・成績検討会の実施<br>○進学目標実現への個別受験対策の充実                         | A | ○進路・成績検討会、進学個人指導やキャリア・パスポートを適宜実施し、生徒の進路意識の向上と進路目標の確認、進路実現につながった。<br>○コロナ禍で実施できていなかったガイダンス等も実施できた。            |

|         |                          |                                   |                                    |   |   |  |
|---------|--------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|---|---|--|
|         |                          | ○専門知識や技術の向上                       | ○地域産業との連携<br>○各学科の特色を生かした探究的な学びの充実 | ○職場体験・インターンシップの実施<br>○教科横断的なつながりを持った探究活動の実践                           | A | ○各学科で就業体験やインターンシップを実施した。<br>○地域産業と連携した研修や探究活動・課題研究などを実践することができた。                                     |
|         | 就職指導の充実と進路保障の実現          | ○適正な自己理解と職業選択                     | ○就職内定100%達成<br>○早期離職率低減            | ○担任とキャリアサポーターとの連携<br>○事前職場見学推進<br>○就職試験に対する個人指導の充実<br>○卒業後の追跡調査の実施・検証 | B | ○就職面接や試験の個別指導の徹底により、就職内定率100%を達成できた。<br>○早期離職防止のため、キャリアサポーターによる就職内定者集会や面談を実施した。                      |
| 生徒指導    | 基本的なマナーの徹底               | ○進学・就職に向けた意識の向上                   | ○面接試験等に通用する整容・挨拶指導の徹底              | ○服装・頭髪指導年4回実施<br>○全職員による自ら考えさせる服装・頭髪指導<br>○挨拶運動、登校指導の実施及び集会等での実践      | B | ○具体的方策を実施し、概ね目標を達成することができたが整容面で何度も指導を要する生徒も見られた。<br>○挨拶指導では、全職員による指導の他に、風紀委員会を中心に生徒主体で取り組むことができた。    |
|         | 交通安全教育の充実                | ○全人教育としての交通安全教育の充実                | ○交通事故・違反等重事故や違反件数「0（ゼロ）」           | ○登校指導、安全点検の実施<br>○警察署と連携した交通安全教室、新規免許取得者講習の実施<br>○交通事故・違反者の事後指導の実施    | A | ○具体的方策はすべて実施することができた。目標としていた違反件数「0（ゼロ）」は達成できなかったが、重大事故はなく、原付に乗せて指導するという取り組みのおかげで交通安全意識を高めることができています。 |
|         | 自ら考える指導                  | ○生徒の実態に合った生活態度やルールの見直し            | ○校則の見直し                            | ○生徒会を中心とした見直しの検討  | A | ○生徒主体で校則の見直しを行うことで、現在の校則や学校生活について社会情勢も含めて考え直す機会になった。今後は教職員、保護者との共通理解を図りながら見直しを進めていく。                 |
|         |                          | ○環境美化の徹底と環境教育の推進                  | ○生徒保健・環境委員会を中心とした環境美化活動の充実         | ○ゴミの分別収集の徹底<br>○校内放送や掲示物等による啓発活動                                      | B | ○町内清掃活動を2回実施し、保健環境委員会を中心として総計約100名の生徒、職員が参加した。   |
| 人権教育の推進 | 自他の命を大切に、差別を見抜き許さず行動ができる | ○命を大切にすることを育む指導の充実<br>○人権教育の内容の充実 | ○LHRの授業内容の精選、教材研究の推進<br>○研究授業による指  | ○「命の日」の実施<br>○授業検討会議の実施<br>○各学年年間4回分の教材を作成                            | B | ○「命の日」をスタートに人権学習を計画通り実践することができた。<br>○各学年の教材作成では、学年や学びの深化に応じた   |

|                     |                                    |   |   |  |   |   |
|---------------------|------------------------------------|---|---|--|---|---|
|                     | 生徒の育成                              |   | 導力向上  |  |   | 指導の充実を図れた。<br>○中・高合同の講演会を実施。職員研修も計画通りに実施し人権感覚の確認から共通理解・共通認識を図ることができた。   |
|                     |                                    | ○職員研修の充実  | ○職員の共通理解と認識の向上                                      | ○年1回の講演会の実施と年5回の研修を実施  | B |   |
| いじめの防止等             | いじめの未然防止「早期発見」                     | ○全ての生徒が安心して学校生活を送るための適切な授業・行事に主体的・活躍するづくり                         | ○生徒一人一人が自己有用性をとる学校づくり<br>○いじめの早期・未然への対応             | ○2者面談・アンケート等の定期的な実施<br>○アンケート後の情報共有と組織的で迅速な対応<br>○専門家との定期的な防止対策会議の開催   | A | ○具体的方策に挙げている内容は概ね達成することができた。(2者面談、学期毎の心のアンケート実施、各学年会における生徒の情報共有、人権標語等)<br>○いじめの認知が4件あったが、専門家を交えた対策委員会だけではなく事案発生の際は迅速に緊急委員会を開催するなど早期対応に努めた。  |
| 地域連携(コミュニティ・スクールなど) | 郷土を愛し・誇りを持つ生徒の育成と総合型コミュニティ・スクールの充実 | ○地域行事、ボランティアへの参加<br>○全学科の「総合的な探究の時間」において地域課題に関する学習を実施<br>○防災教育の充実 | ○地域住民との連携<br>○自治体・地元企業との連携<br>○生徒が主役となる地域交流行事や学習の参加 | ○八朔祭での製作並びにボランティア活動への参加<br>○協議会における意見交換での創造的な魅力化推進<br>○地域消防署と連携した防災訓練並びにAED職員研修の実施<br>○NPOと連携した地域課題をテーマとした学習活動<br>○近隣小・中学校との交流活動 | A | ○八朔祭りでは、測量競技会全国大会のPR活動も兼ねて、キャラクターをモチーフにした造り物を製作し引き回しに参加。棚田ボランティアも継続して実施。<br>○「総合的な探究の時間」等で山都町内のPR動画を制作するなど郷土愛を高められる学習活動を行った。<br>○避難訓練・救助活動など地域の消防署と連携し、生徒・職員ともに実演指導を仰ぐことができた。<br>○近隣小学校との交流学习も計画的に3回実施。 |
| 特別支援教育(教育相談含む)の推進   | 特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応               | ○個に応じた指導の充実<br>○職員研修の推進   | ○職員全体の指導力向上   | ○不登校等対策委員会を適宜実施<br>○生徒の指導計画を作成及び全職員による支援<br>○定期的な職員研修の実施   | A | ○不登校対策委員会に限らず、適宜ケース会議を実施し、支援方法の検討や実施と見直しを行った。<br>○職員全体の指導力向上に向けた研修を2回、生徒理解に関する研修を2回実施した。  |

#### 4 学校関係者評価

- ・小・中学校ではキャリア教育の視点から学力向上につなげようとしている。中学校での取り組みと高校のキャリア教育とつなげたい。
- ・高校での学習活動を知ることで中学校での学習活動にフィードバックできる。中学校・高校との接続をよりスムーズにしていきたい。
- ・不登校の寮生に対して関係職員やS C、S S W、病院と連携しながら対応しているが、家庭との連絡・連携の難しさなどが分かり、N P O運営の寮の課題も知れた。
- ・タブレット端末を活用し、休校時の教材や課題の提供などの対応も可能である。その有用性からタブレット端末を「毎日持ち帰り」にするなどの検討もしてほしい。
- ・朝課外の廃止になったが、スタディサプリの導入だけでなく、夕課外・個別指導を継続に実践し進路保障に結びつけてほしい。
- ・地域のボランティア活動に矢部高生が参加してくれる。食農科学科による棚田を守るための水路清掃や林業科学科の生徒が植樹にも参加してくれた。今後も継続的な取り組みにしていきたい。
- ・毎朝、道路に立っていると気持ちの良い挨拶をしてくれる。正門一礼もできており、見ていてとても気持ちが良い。
- ・地域みらい留学は、昨年度よりも学区外の生徒数が減少している。年々参加する高校が増えており、矢部高校の魅力をアピールしていく必要がある。業者に委託してP R動画を制作する学校もあるが、在校生が直接説明をすることで、中学生・保護者が高校生活を分かりやすく、イメージしやすいのではないと思われる。また、学校の魅力を発信する内容は、より精選・精査していく必要がある。
- ・生徒の家庭学習に係るアンケート項目の数値が低いのが気になる。今後も家庭学習の定着を図りつつ、アンケート数値の推移にも注目していきたい。
- ・1年生が制作した動画を拝見した。生徒も山都町を知る機会だけでなく、山都町の「食」と商店街の魅力化にもつながって感謝している。
- ・山都町は東京農業大学校との包括協定がある。高校でも大学提携のショップなどに実習製品を出品させてもらっても良いと思う。また、大学と連携することで、農作物生産においての有益な情報やアドバイスをもらうこともできると思われる。
- ・学校施設を山都町と一緒に施設利活用はできないだろうか。生徒数も大幅に減少し、日常の掃除をはじめ、施設管理も難しくなってきたと思われる。画期的な方策を検討することも必要である。
- ・町の好きなどころ・嫌いなどころ・改善したほうがいいところ、町政の良い点・悪い点などをまとめたパネルディスカッションを行う等、地域について生徒たちがより深く考えられる時間があると良い。（総合的な探究の時間・課題研究などにおいて）
- ・中学校で実習製品であるジャムを販売してくれた。製造した人の姿（先輩）やコメントを直接が聞くことができ、中学生にとっても良い取り組みであった。

#### 5 総合評価

- ・地域住民の方々の本校に寄せる期待と関心度は非常に大きい。少人数でだからこそできる生徒一人ひとりの実状に寄り添いながら、丁寧で熱心な学習指導、進路指導、生徒指導等の実践に努めており、その成果が本年度の進路状況にも着実な成果として表れている。
- ・少なからず転・退学者はいるが、担任・学年団・教育相談部・養護教諭・人権教育主任などの校内連携に留まらず、外部の専門機関との積極的な接続と連携強化が生徒や保護者の安心感を生み、ネガティブな思考から前向きな思考への転換につながっている。
- ・3学科（林業科学科・食農科学科・普通科）ともに地域に根ざした取り組みから、学科の特性に合わせた関連機関との特色ある教育活動を展開している。また、本年度から普通科でもインターンシップを実施し、学科横断的な学びの展開へつなげられた。
- ・習熟度別授業や類型別学習などの授業形態の工夫に努め、少人数クラスの強みを生かし、個々の生徒に対して丁寧な指導は継続的に行っている。
- ・「地域みらい留学」を利用して全国規模で生徒募集を行っているが、一番身近にいる地元中学生の進学率をさらに高めるため、山都町の支援を最大限に生かすとともに、引き続き充実した教育活動の展開を進める。また、中学生向けの情報発信だけでなく、その保護者や中学校の先生方にしっかりと伝わる情報発信にも力を入れる必要がある。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・今年度の学校評価アンケートの調査項目は、具体的目標や方策に沿った形とし、より取り組みの達成度を数値的に検証することができた。また、調査対象範囲を生徒・保護者・職員の三者とし、データ分析をしやすいものにした。今年度の結果をさらに検証しながら、生徒が主体的で能動的に活動し、活躍できる教育活動の展開、タイムリーで魅力ある情報発信、小・中学校や地域企業・大学や専門機関との連携を強化し、地域の期待や要望に応えられる人材育成と学校づくりを目指す。
- ・安全・安心な学校として、バイクや自転車の交通安全指導の徹底、本校や地域の実態に即した防災活動、外部との連携による教育相談のさらなる充実など継続して取り組む。